

1 研究の概要

(1) 研究主題

主体的・対話的な学習を通して、自分の考えを表現できるこどもの育成

～ユニバーサルデザイン化を目指した国語科の授業づくり～

(2) 主題設定の理由

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が激しく、予測困難な時代となってきている。急速な社会の変化の中で、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育むなど、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。これからの時代に必要な資質・能力を育むために、今年度から実施される新学習指導要領では「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の3つの視点からの授業改善が推進されている。

本校では「美しい心もち 自分で考え やりぬく子」の育成を学校目標とし、確かな学力を積み上げるために日頃から「考える」習慣をつけさせたり、「若葉授業」の共通実践を行ったりしている。また平成30年度、令和元年度には、自分の思いや考えを伝え合い、つながり合う子どもの育成を目指し、特別活動（学級活動）の研究に取り組んだ。その結果、友達とのつながりを深めたり、自分の得意なことなどを生かしたりできる児童が増えてきた。しかしアンケート結果から、よりよい方法を考えて表現することに対して苦手意識をもっている児童が3割程度いることが分かった。さらに、令和元年12月佐賀県学習状況調査の国語の領域別正答率を見てみると、書く領域だけ正答率が50%台と低く、概ね達成に至っていない。また、本校の児童は意欲を持って授業に取り組むことが難しく、集中力が持続できない、上手く人間関係を築けない、といった学習面や生活面で支援や配慮を要する児童が通常学級にも少なからずいる。

そこで本年度は、平成26～29年度に取り組んできた国語科「書くこと」の研究や昨年度まで取り組んだ特別活動の研究の蓄積を生かしながら、「主体的な学び」、「対話的な学び」の視点から授業改善を目指し、学習面で支援が必要な児童であっても意欲をもって学習に取り組み、書く力を高めることで自分の考えを表現できる児童を育成したいと考え、研究主題を設定した。

(3) 研究目標

国語科の学習において自分の考えを表現できる子どもを育てていくために、授業のUD化を目指し、書く力を高める効果的な指導方法の在り方を探る。

(4) 研究仮説

国語科の領域B「書くこと」の授業において「主体的な学び」、「対話的な学び」の視点から授業改善を行い、児童全員が「分かる」、「できる」ように授業のUD化の手立てを工夫していけば、書

く力が高まり自分の考えを表現する力を身につけることができるであろう。

(5) 研究内容

- ア 主体的に学ぶための手立て……………学習意欲をもたせる工夫，学習の見通しをもたせ，自分で課題設定ができる手立ての在り方
- イ 対話的な学び(友達タイム)の工夫…発達段階・学習過程に応じた友達タイムの工夫，これまでの国語・特活での研究をいかした手立てを深める
- ウ 授業のUD化を目指す…児童全員が「分かる」，「できる」授業にするための手立ての在り方
(○焦点化，○視覚化，○共有化)

(6) 研究組織

- ア 全体会……………全職員で研究協議会を行い，必要に応じて講師を招聘し，研究を深める。
- イ 研究推進委員会……校長・教頭・教務主任・研究主任・研究副主任・低中高代表それぞれ1名，級外代表1名，特別支援学級代表1名で構成し，主に研究の方向や方法について協議し，実践的研究のための計画立案・連絡調整を行う。
- ウ 学年部会……………低学年・中学年・高学年・特別支援学級の学級担任及び級外で構成し，実践的研究を行い，本研究を検証する

(7) 期待される研究の成果

- ア 児童が見通しをもって粘り強く学習に取り組めるようになり，自己の学習活動を振り返り，次の学習につなげられるようになるであろう。
- イ 学習過程に合った友達タイムを効果的に仕組みば，児童が自分と他者の意見や考え方を比較したり，様々な考えに触れられるよさを認識したりし，考えを広げたり深めたりすることができるようになるであろう。
- ウ 授業のUD化を目指した「若葉授業（つかむ，考える，深める，まとめる）」を行い，手立てを工夫することで，どの児童も全員が分かりやすい授業となり，自分の考えを表現する力を身につけることができるであろう。